

## 「中道」…認め合い、尊重し合うこと。「自己確立」

合掌

朝日新聞が掲載記事の訂正を發表しました。従軍慰安婦問題と福島第1原発の職員の命令違反の記事についてです。記者は勿論、報道者としての使命感に燃え、真実を報道したつもりでしょうが、結果として、十分な検証が行われないうまま、極端な言い方をすれば記者(担当者)の思い込みや偏見を含んだままの報道となってしまったのではないのでしょうか。

MHKの朝の連続テレビ小説「花子とアン」で、ラジオ放送のアナウンサーが「ラジオ放送でのニュースの原稿は、声の抑揚をつけず、感情を表さないように、正確に読むこと。」というようなことを、常に花子に注意していました。ところが太平洋戦争開戦のニュースを、政府の担当者がそのアナウンサーに代わって読んだ時のことです。政府の担当者は、開戦のニュースを、国民の戦意高揚の為、熱弁します。それをアナウンサーは、怒りに震えながら聞いていました。花子がニュースを読み始めたころ、花子に何かと注意するそのアナウンサーは、なんと意地悪な人だろうと思って観ていましたが、彼は、アナウンサーとは何たるか、報道とは何たるかをしっかりと自覚していたのです。つまり、報道とは、真実を正確に伝えることであり、それらについての良いか悪いかなどの判断は、受け取る側の方が、自分で考えて行くものだ。それを、報道する側が、報道内容に何らかの価値を付随させて報道してはならないと、彼は考えているのだろうと思います。報道内容について、社説的に行くことはあるでしょうが、それは、自らの立場を表明しているのですから、受け取り手もそれを前提に聞いたり読んだりしますので、その放送局や新聞社はこういう考えなのだなど、ある意味客観的に受け取ることができます。

釈尊は、「中道」を説きました。釈尊は、出家前、王族として優雅な暮らしをしていましたが、その享樂の生活には真実を見いだせず、また、出家後の難行苦行でも悟りを得ることができませんでした。これらの経験から、「苦」と「楽」の両極端から離れ、偏りのない心でいることが重要だと気付かれたのです。それが、「中道」です。人は様々なものに価値を見出したり、意味付けしたりしながら生きています。「良い」「悪い」「美しい」「醜い」「好き」「嫌い」等。それらは、その人の生活環境や生活経験、置かれた立場等によって違ってきます。価値観の違いですね。しかし、それはそれで良いのです。大事なことは、それらを互いに認め、尊重するということだと思います。「自分は、それは嫌いだから認めない。」とか、「自分の考えは絶対正しい。」とか、極端にならないこと、これが「中道」です。極端になってしまう、つまり、偏った考えや見方になってしまうと、対極にあるものを認められなくなり、もしかしたら、その中にも真実や素晴らしい価値があるかもしれないのに、それに気付かないということになってしまいます。現在、世界各地で起きている紛争の原因も、こうした、偏った見方や考え方がその原因になっていることが、たいへん多い気がします。先の朝日新聞の記事もそうかもしれません。事実に対して、何かしらの偏見があったために招いた報道だったのではないのでしょうか。

人の価値観は様々です。我々の生活の中ではそうしたことが原因で、不快な思いをしたり、争ったりすること、とても多いですね。それは当然です。しかし、価値観が違うから、考え方が違うからと言って、互いに否定し合っては、進歩はありません。否、違うからこそ、進歩があるのかもしれない。違って当たり前、互いの存在や考え方を認め合い、尊重し合うことが大切なのだと思います。そして、その上で、互いに歩み合う努力をし、新しい道を模索することです。極端に立ち、「破壊」し合うのではなく、「中道」に立って、新しい関係を「創造」するのです。全ての事物は常に変化している。つまり、いかようにでも変えることができる。「諸行無常」のポジティブな側面ですね。そのために、まず、私たち自身が、もっともっと、社会や自然や倫理などについて学び、見識を広め、様々なことにチャレンジして経験を積み、自己を高め、広めようとする態度を養うことが大切です。そして、そうした態度こそ「自己確立」だと思います。